

留学生のための「ゆかた着付け教室」を開催しました

鳥取大学と鳥取県留学生交流推進会議のメンバーである鳥取中央ロータリークラブの主催で、留学生のための浴衣着付け教室を7月3日(金)、鳥取市湖山西地区公民館において開催しました。これは毎年七夕の時期に本学の留学生を対象に開催しており、今回は、中国、韓国、ベトナム、マレーシア、タイ、インドネシア、モンゴルなど7か国29名の留学生が参加しました。

留学生達は浴衣についての説明を受けたあと、ロータリークラブの方々の手助けにより色鮮やかな浴衣の着付けに挑戦しました。浴衣を着たあとは、七夕の短冊に思い思いの願い事を書き、笹竹に結び付けました。七夕体験の後は、鳥取市の伝統的な盆踊りと日本の代表的な「炭坑節」の指導を受け、浴衣姿で輪になって踊りました。



ゆかた着付け教室に参加して

地域政策学科2年生 鄭方園

はじめてゆかた着付け教室に参加しました。アルバイト先で着物を着る経験があったので、浴衣の着付けも自信満々でした。ゆかたの帯の蝶々結びの経験はありませんでしたが自分で何回か結んでみましたが、蝶々に見えなくてとても不安になってしまいました。そこで、ロータリークラブの先生から蝶々の結び方を教えてもらいました。本当に普通の帯ですが、先生の手で魔法のように一瞬で綺麗な蝶々になりました。浴衣を着たあとは、盆踊りも教えてもらいました。とても、楽しかったです。来年もぜひ参加したいと思います。留学生たちは一人一人の願いを七夕の短冊に書きました。みんなの願いが叶うように祈ります。最後に、今回の浴衣着付け教室を主催した方々に感謝を申し上げます。ありがとうございます。